

現場へ!

「町並み守りたい」名士続々

再開発 都心「番町」で ③

大橋智子(67)は建築事務所を主宰する一方、歴史的建造物の保存や新国立競技場の建設見直しにかかわってきた。2018年6月、母校の女子学院がある東京都心の番町地区(千代田区)で、日本テレビが150坪までの超高層ビル

などを開発する計画を知った。まもなく「番町の町並みを守る会」という勉強会を始めた。

町並み保全や都市工学の専門家を招いた勉強会を開くと、手応えがあった。参加者は初めは70人、やがて100人を超えた。「署名

番町地区は一番町から六番町まであり、古くからの住宅街だ。二

番町にあるグロービス経営大学院学長の堀義人(59)は勉強会に顔を出して「住民が知らぬ間に進んでいる」と驚いた。道路が狭い住宅地で学校が多い文教地区。「僕にできることがあるなら何でもやります」。大橋らと「守る会」の共同代表に就いた。

一番町に越してきた元三菱商事副社長の中原秀人(71)は「守る会」のチラシで日テレの計画を知った。欧米で働いてきた彼は、海外と比べて日本の都市の景観への無頓着さにあきれていた。「60坪でも十分高いのに、もっと高いビルを住宅地に建てたいというのだから」。彼も共同代表に就いた。

35年以上暮らす元トルコ大使の田中信明(75)もチラシで知った。「スイス人の妻は『日本の都市開発はあまりに自由すぎる』と怒っていますよ」。区議会で参考人として意見を述べた。「150坪の超高層ビルは違和感がある」「国

は有事法制のときに国民への説明会を何度も開きましたが、千代田区は住民向けに積極的な広報活動をしていません」と。

女子学院事務長の本田真也(67)の合計4人の反対派が協議会のメンバーに加わった。翌19年1月の第7回協議会には傍聴人が150人もつめかけた。日テレの代表は150坪の高層ビルの計画について「150坪あれば十分である」という意味の数字であり、「150坪の建物を計画しているわけではない」と釈明した。

日テレは18年7月、区が進める「日本テレビ通り沿道まちづくり協議会」(第4回)で広場や歩道などを造る考えを示しつつ、「地区計画で定められた高さ制限を緩和する」案を紹介した。10月には日本社の解体工事が始まった。

推進派だけでなく自分たちの声も聞いて欲しいと、10月から「守る会」の2人、グロービスの堀、



女子学院中学高校



大妻中学高校



元国際交流基金理事長の小倉和夫



日本テレビが所有している土地



グロービス経営大学院学長の堀義人

近隣の女子学院と雙葉、大妻の3女子中高は20年10月、「企業は利益至上主義ではなく社会的責任を果たすべく企業活動が求められています」などとする要望書を千代田区長の石川雅己(80)らに提出した。番町地区にある伝統校10校ほどに通学する児童・生徒数は8千人にのぼり、高層ビルができる

と6千人超の通勤客で文教地区の環境が激変する、と訴えた。協議会は中断した。2年以上開かれな

かれないままになった。敬称略 (編集委員・大鹿靖明)